

企業の環境配慮が大学生の就職活動における 企業選択に与える影響

長谷川路子

キーワード：環境配慮、就職活動、企業選択、労働市場

1. 研究の背景・目的・方法

近年、就職したい会社を選ぶ際に企業の環境配慮を考慮する動きが大学生の間で見られるようになってきた。大学生が就職したい会社を選ぶ際に企業の環境配慮を考慮するのであれば、企業は採用活動時に環境への配慮をアピールすることで、自社に興味を持つ学生を増やし、人材獲得を優位に進めることができるかもしれない。また、環境問題の深刻化や環境問題への人々の関心の高まりに押され、今後、企業は更なる環境配慮を求められるようになると予想される。この時、環境意識の高い社員、延いては自社の環境方針や取り組みに賛同している社員が多いほど、企業は環境配慮を進めやすくなるだろう。しかし、労働市場における環境配慮の動きは始まったばかりであり、先行研究としても、就職情報サイトや人事マネジメント会社、学生による独自調査がわずかにある程度である。

このような現実から、本研究では、過去5年間（2004～2009年）に民間企業を対象に就職活動を行った学生または大学卒業生（修了生）に対してアンケート調査を実施し、それを通して、大学生は就職したい会社を選ぶ際に企業の環境配慮を考慮しているのかどうかについての実態を把握するとともに、採用活動時に環境への配慮をアピールすることで企業は人材獲得を優位に進めることができるかどうかを明らかにすることを、研究の目的とした。

2. 結果と考察

表 企業の環境配慮を考慮した行動のパターンから見た分類

考慮行動パターン	<就職活動開始時> 環境問題への取り組みを	<企業情報収集時> 環境問題に取り組む会社に	<応募時> 環境問題への取り組みが	企業の環境配慮に関する情報
A (8人)	○	○	○	—
B (6人)	○	○	×	—
C (7人)	○	×	×	—
D (1人)	×	○	○	—
E (2人)	×	×	○	—
F (11人)	×	○	×	—
G (17人)	×	×	×	○

計 52人

○:重視していた

○:魅力を感じた

○:決め手となった

○:自ら集めた

×:重視していなかった

×:魅力を感じなかった

×:決め手とならなかった

アンケート調査の結果、就職したい会社を選ぶ際に企業の環境配慮を考慮した人は、回答者 161 人中 52 人 (32.5%) であった。表に見るように、この 52 人を、企業の環境配慮を考慮した行動のパターンから分類すると、企業の環境配慮が就職したい会社の選択にまで影響を及ぼした人（考慮行動 A～F のパターン）は 35 人（企業の環境配慮を考慮した人の 67.3%）であった。この 35 人は、採用活動時に企業が環境への配慮をアピールすることで獲得できる可能性のあった人材である。しかし、この 35 人のうち、企業が環境問題に取り組んでいることが応募の決め手となった人（考慮行動 A、D、E のパターン）は 11 人であり、残りの 24 人（考慮行動 B、C、F のパターン）は、その可能性があったにもかかわらず、企業が獲得することのできなかつた人たちということになる。各考慮行動のパターン間で比較を行ったところ、この 24 人を応募に導くための方策として、企業の方から環境問題に積極的に取り組んでいることをアピールしていくことの必要性や、環境問題に積極的に取り組むことが会社の発展につながるという確信を与えること、環境問題に取り組むことで第3者による会社の評価が高くなるという認識を持たせることなどが示唆された。